

氏名	福 島 研 吾
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第1685号
学位授与の日付	平成10年3月25日
学位授与の要件	医学研究科内科系循環器内科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Delayed Improvement of Autonomic Nervous Abnormality After the Maze Procedure: Time and Frequency Domain Analysis of Heart Rate Variability Using 24-hour Holter Monitoring (Maze手術後遠隔期の自律神経活動の回復-24時間ホルター 心電図による心拍変動解析を用いて)
論文審査委員	教授 菅 弘之 教授 辻 孝夫 教授 佐野 俊二

### 学位論文内容の要旨

Maze手術は心房細動を洞調律へ復帰させる根治的な外科的治療として行われているが術直後、運動負荷に対する心拍反応の低下がしばしば認められ洞房結節への自律神経線維の障害が示唆される。そこで今回24時間ホルター心電図による心拍変動を解析することによって洞房結節への自律神経活動を定量化し、術後1カ月、6カ月、12カ月の自律神経活動をprospectiveに評価した。その結果、術後1カ月では心拍数の日内変動、交感神経活動、副交感神経活動はいずれも著明に低下しており、洞房結節への除神経状態を生じていると考えられたが、術後6カ月、12カ月では心拍数の日内変動の回復に平行して全ての自律神経活動の指標は徐々に回復し、洞房結節への再神経化を示唆する所見と考えられた。

### 論文審査結果の要旨

本研究は、心房細動を洞調律へ復帰させる根治的な外科的治療として行われているMaze手術の術直後しばしば認められる洞房結節への自律神経線維傷害を示唆する運動負荷に対する心拍反応の低下を研究したものである。術後患者の24時間ホルター心電図による心拍変動を解析することによって洞房結節への自律神経活動を定量化し、この分野では初めて術後1ヶ月、6ヶ月、12ヶ月の自律神経活動を経時的に評価した。その結果、術後1ヶ月では心拍数の日内変動、交感神経活動、副交感神経活動はいずれも著明に低下しており、洞房結節への除神経状態を生じていると考えられたが、術後6ヶ月、12ヶ月では心拍数の日内変動の回復に平行して全ての自律神経活動の指標は徐々に回復し、洞房結節への再神経化を示唆する知見が得られた。これは、循環器病学上重要な新しい知見である。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。